

健康福祉常任委員会会議記録（概要）

平成28年2月9日（火）

開 会（午前10時00分）

【議 事】

○特定事件「保健・医療について」

産前・産後ケアについて

亀山委員長

本件の審査の経緯について、説明を求める。

事務局

（これまでの審査における会議録、視察報告書などから経緯を説明）

亀山委員長

これまで委員会として産前・産後ケアについて、先進3市の視察を行い、それから所沢市の取り組みについて特定事件として取り扱った。このテーマについて今後どのように取り扱っていくかということと、スケジュールについて意見を伺いたい。

取扱い方法の例として、提言・決議、政策討論、発展すると条例制定などあるが、いかがか。

松本委員

一連の視察を経て、高齢者や子ども、障害者等のいわゆる弱者について、どこに何を相談したらよいかということが整備されているという点が印象的だった。所沢市では独居老人の調査等について民生委員が調査を行っているが、その結果を関係課で共有していない。市民から見ると窓口がすっ

きりしている、ワンストップで相談できるシステムができないものか、と感じた。

末吉委員

和光市のように地域包括ケアに全てが包括されるというのは、先進的であり国もその方向を目指しているのだろうが、所沢市は和光市に比べて市の面積が広く、地域包括支援センターだけでも14カ所もある。それと圏域が3つしかない和光市と同じような形で合意・共有できるのかと思う。良い理念だということは分かったが、すぐにそのまま所沢市に当てはめられるものかと感じ、もう少し議論を深めたい。

吉村委員

議論を深めるには時間がかかる。この問題についての終わりの時期をはっきりさせておかないと、いつまでも続けるのは厳しいと思う。例えば3月議会が終わって、1つの区切りをどこでつけるかを決めて、その間に提言をまとめようとか、そのために討論会をしようとか、筋道を立てた方がよい。

末吉委員

政策形成をしていくときに、政策討論会等のツールがこれからのスタンダードになる気がするので、もし提言をするなら、その前にここまで議論が深まったと市民にお伝えする場が持てたらよいということが一つ。

それから、所沢市もこんなにやっているのに何を言っているのか、と思われている気がする。何が足りないか、なぜやるのか、ということを確認

にして提言をしたい。先進モデルとどこが違うのか、もやもやする。

平井委員

和光市に行って一番感心したのは、地域ニーズを調査した点である。ニーズ調査をして、計画策定に活かした、ここが全然違う。所沢市の子育てガイドを見て所沢市も結構やっていると思ったが、縦横一貫した総合的なしくみになっておらず縦割りになっているため、一人の人を丸ごと抱えるようなしくみになっていない。

地域包括支援センターについては、末吉委員と同じ考えを持っており、これ以上子どものケアを加えたらどうになってしまうのかと思った。所沢市は所沢市の違う方向を探っていかなければならないと感じた。

松本委員

和光市の3圏域と同様に、所沢市も11地域に分かれている。地域の体制も、例えば柳瀬と緑町では違う。それぞれの地域で対応していかないと問題解決は難しいが、日常生活圏域のニーズ調査は何らかの形で、オープンな形でできないかと思う。

平井委員

平成25年2月に地域福祉をテーマに開催した政策討論会のときに、条例を作りたいという動きがあったが、個人情報に関するということでできなかった。

松本委員

助ける側と助けられる側では、ある程度個人情報をオープンにしなければ

ばならない。

亀山委員長

日常のニーズ調査について、子ども・子育て支援制度を実施する時にニーズ調査をしていると思うが、それとは別の話ということか。

越阪部委員

所沢の子育てが総合的にわかりやすくなるにはどうしたらよいか、ということが共通しているのか。所沢市はどうなっているのか、整理をどうしたらよいかということだと思う。委員会としての提言を6月くらいにしましょう、という見通しを。

吉村委員

3月議会が終わったあと、早めの時期に一度整理をしてはどうか。

平井委員

その前に一度執行部の話をきく機会を設けて、その上で提言をまとめるのはどうか。

越阪部委員

政策討論なども話を聞いてからでも遅くはない。

末吉委員

政策討論会というツールではなくても、何かやればみんなと共有できるのではないか。今は委員会の場だけでしかない。

平井委員

もう一度お互いの共通認識を確認し、3月議会後に提言をまとめる方向

ということでしょうか。

末吉委員

和光市で、ネウボラ拠点の子育て世代包括支援センターに生まれ変わるという話を聞いた。所沢市にはネウボラ拠点は無いが、それに代わるものはあるのか。保育園などはどうなのか。

亀山委員長

子育て世代包括支援センターに関しては、国で言われていることだが、事務局で何か分かることはあるか。

事務局

平成27年9月に厚生労働省雇用均等・児童家庭局があらわした、「子育て世代包括支援センター」と利用者支援事業等の関係等についてという資料は手元にはございますが、細かい部分については把握しておりません。

末吉委員

何かを作るとなると、本当に機能していることもあれば、看板をかけただけ、ということもある。

越阪部委員

所沢市の場合、例えば子どもと福祉の未来館のことについては3つの課に話を聞かなければならないのが現状。そこが和光市と違うところなのかと感ずる。そういうところを整理するべきではないか。

矢作委員

子どもと福祉の未来館の条例案が出てくるならば、その審査の中でわか

ることも多少あるかと思う。委員会審査と一般質問が終わったあとの開会中か、4月になるのか、そこで一度3課の説明を聞く機会を設け、6月議会に向け提言を作っていくという理解でよいか。

亀山委員長

委員会として提言と言う形で成果を表し、3月議会が終わったあとに、あらためて3課に話を聞く機会を設けることでよろしいか。

(委員了承)

越阪部委員

作るということは分かっている、それがということだが、看板をつくるだけでなく、機能はどうなっているか。思いとか、大切にしたいことはどのように含まれているか。起こったことはいろいろなところで対応するが、そうではなく予防のようなことは所沢市ではどうやっていくかが主になると思う。その辺の話が十分にできないと。

亀山委員長

整理すると、1つ目は提言の中身と期限、2つ目は市民との接点の機会、3つ目は産前・産後ケアに絞って取り組んできたところが子育てという体制的なものに広がりを見せてきたということをどのようにしていくか。この3点で委員会の方向性を決めていったらよいと考える。

末吉委員

高い理想を掲げて提言をしても、執行部と問題意識を共有し、やろうと共感しないと。政策に反映させなければ。

平井委員 以前は、担当課長と一緒に視察をしたこともある。今後のあり方として提案したい。

中村委員 6月に提言を行うということで一致したのか。視点が揃ってきて、全員協議会なのか、政策討論会なのか、その辺りを整理して。

平井委員 提言はしたい。

越阪部委員 3月の議案の審査のあとに、もう一度議論してもよいと思う。

中村委員 では、3月議会のあとに、1、2回議論し、6月に提言という流れで。

(各々発言あり)

亀山委員長 3月議会が終わったあとに特定事件として委員会を開催し、担当課に話を聞いた後に、提言を作成し、6月議会で提言の発表、という方向性を定めるということ、それ以外の部分は、次回協議会で協議するということがよろしいか。

(委員了承)

散 会 (午前10時43分)